

令和4年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第1回第一分科会
開催日時	令和4年7月12日(火) 午前10時から12時まで
開催場所	男女平等推進センター(ウィメンズパル)3階 洋室A
出席者	【委員6人】 (出席) 大石会長、鈴木委員、菅原委員、大友委員、上村委員、千田委員 (欠席) 大山委員、長谷川委員 【区側8人】 事務局(経営改革担当課長、事務局職員5人) 高齢者支援課(高齢者支援課長、高齢者支援担当係長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 事務事業の概要説明、ヒアリング

(高齢者支援課より「認知症事業の充実」の概要について説明をした後、質疑応答、議論)

A 委員：かつしか認知症啓発カードは、300円で販売しているのか。

高齢者支援課：35枚を1セットとして300円で販売している。

B 委員：かつしか認知症啓発カードはどこで販売しているのか。

高齢者支援課：区役所の区政情報コーナーで販売している。カードは、認知症の方の状況を把握してもらうきっかけ作りを目的として作成しており、昨年度から区のホームページでも公開している。

カードは、認知症の方がいる家族や学校で教材として使っていたり、くなど、普及啓発のツールの一つとして考えている。

C 委員：認知症について、広報などで周知はしているのか。

高齢者支援課：普及啓発ポスターの掲示や区の広報で毎年9月に特集記事を掲載している。

D 委員：認知症の冊子はどこで配布しているか。

高齢者支援課：医師会と共同で作成しており、医師会経由で様々な場所で配布している。他にも、区の高齢者支援課の窓口や、区内に14か所ある高

高齢者総合相談センターでも配布している。また、区のホームページでも冊子の内容を公開している。

B 委員：高齢者総合相談センターでも配布しているということだが、地区センターでは配布していないのか。

高齢者支援課：地区センターでは配布していない。多くの場所で配布した場合、部数の把握が難しくなるため、現在は、福祉関係の窓口がある施設を中心に配布している。

B 委員：例えば、親が認知症になったらどうしようか考えている若い人達が、高齢者総合相談センターに行かなくても、認知症について情報が得られるような工夫があると良いのではないか。

高齢者支援課：若い世代向けの対応については、検討していきたい。

A 委員：民生委員や町会にパンフレットを配布すれば、より広く周知できると思う。もう少しPRの工夫が必要だと思う。

会 長：オレンジカフェは職員が常駐しているのか。

高齢者支援課：オレンジカフェは常設ではなく、決められた曜日に開催しており、開催日には、高齢者総合相談センターの職員が同席している。

B 委員：もの忘れ予防健診の受診票を毎年一回受診対象者に送付しているということだが、受診対象者の人数を教えてください。

高齢者支援課：対象者は毎年約4万人である。そのうち受診者は約3千人である。

B 委員：今後、受診者を増やしたいと考えているのか。

高齢者支援課：他区と比べて、本区の受診率は高いが、受診者を更に増やすことは、難しいと考えている。認知症は自分とは関係ないと思ってしまう傾向があり、検査自体は、短時間で終わる気軽な検査ではあるが、一回検査を受けて問題がなければ、来年は受診しなくても良いと考えている方が多いのではないかと推測している。一定の受診率は、求めていきたいと考えているが、受診率を高めることだけが、健診の目的ではない。健診を受診した方が、予防の行動をとっていただくことを健診の最大の目的としている。

B 委員：医療・介護の専門職が訪問し、必要な医療・介護の導入や家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行う、認知症初期集中支援チームは、家族から依頼を受けて、職員が訪問するのか。

高齢者支援課：高齢者支援課や高齢者総合相談センターが相談を受けて訪問する。また、民生委員から連絡を受けて、一緒に訪問する場合もある。

C 委員：対応件数はどのくらいか。

高齢者支援課：高齢者支援課や高齢者総合相談センターで取り組み、受診につなげるケースが多く、医師が訪問する事例は、年間10件程度である。

- D 委員：なぜ、もの忘れ予防健診の受診率が増えないと考えているのか。
- 高齢者支援課：認知症は自分で自覚することが難しいこともあるが、一番の原因は健診を受診して、認知症と診断されることを恐れているのではないかと考えている。もの忘れ予防健診の受診率を向上させる取組も大事だが、事業としては、認知症に対する正しい知識を持ち、早期発見、治療を受けることができれば、受診するメリットがあるということを知ることが大事と考えている。そして、認知症はネガティブな印象ばかりではないと考える人を増やし、健診の受診対象者になった時に健診を受けていただくという総合的な取組と考えている。
- E 委員：受診率の向上は必要だと考えている。訪問診療の制度は良いが、認知症予備軍をどのように掘り起こしていくかが課題だと思う。
- B 委員：おでかけあんしん保険の保険料の区の負担は、一人あたりいくらか。
- 高齢者支援課：一人に対する負担金額が毎年同じではなく、登録人数、引受保険会社に応じて金額が変わる。
- B 委員：おでかけあんしん保険の引受保険会社はどのように決まるのか。
- 高齢者支援課：入札で決まる。
- 会 長：区が負担する目的は何か。
- 高齢者支援課：損害を与えたご本人、そのご家族、事故で損害を受けた区民が被害を受けないように、区が保険料を負担することで、認知症の方や認知症が身内にいる家族の方が地域で安心して、暮らせることを目的としている。
- B 委員：おでかけあんしん事業に登録した場合、区民の方は、自動的に保険に加入するということか。
- 高齢者支援課：おでかけあんしん事業の登録と保険の加入は別である。既に個人で保険に加入している場合は、二重加入になってしまうので、おでかけあんしん保険に加入しない場合もある。
- B 委員：おでかけあんしん事業のコールセンターの委託料は評価表の予算及び決算状況のどの部分に記載があるか。
- 高齢者支援課：決算の委託料に含まれる。おでかけあんしん事業の委託料は約 90 万円である。
- 会 長：次回、委託料など、経費の内訳を示してほしい。国庫支出金の主な内訳で、地域支援事業交付金と記載があるが、認知症の普及啓発、認知症の早期発見・早期支援、認知症高齢者徘徊対策のどの事業経費に含まれるか。
- 高齢者支援課：ほぼ全ての事業経費に含まれる。
- 会 長：令和 2 年から 3 年にかけて、地域支援事業交付金が約半分の金額に

なった理由は何か。

高齢者支援課：普及啓発として、イベントを実施していたが、新型コロナウイルスの影響で中止したことから、地域支援事業交付金が減額された。

会 長：都支出金の認知症検診推進事業補助金は、どの事業に充てられたか。

高齢者支援課：認知症の早期発見・早期支援の、もの忘れ予防健診に対する補助金である。

E 委員：都から地域密着型サービスの補助金が支出されていると思うが、その補助金は、都支出金の経費の主な内訳の認知症検診推進事業補助金等に含まれるのか。

高齢者支援課：地域密着型サービスの補助金は認知症事業に充てられていないと思うが、確認して、お示しする。

B 委員：業務量（人）が令和2年度から令和3年度にかけて減っているが、もの忘れ予防フェスタを中止したことが要因か。

高齢者支援課：もの忘れ予防フェスタだけでなく、コロナ禍で様々な事業が中止や縮小されたことが要因である。

B 委員：令和4年度も業務量（人）が少ない中で事業を実施しているのか。

高齢者支援課：もの忘れ予防フェスタは今後実施しない方針なので、おそらく業務量（人）は令和3年度とほぼ変わらないと考えている。

A 委員：おでかけあんしん事業に登録された方が、実際に事故等を起こして保険を支払ったことはあるのか。

高齢者支援課：過去3件程度ある。

E 委員：おでかけあんしん事業は区独自の事業か。

高齢者支援課：類似事業を実施している区は数区程度である。

D 委員：評価表の目標と乖離の考察において、令和3年度は、おでかけあんしん事業コールセンター受付件数が30件と記載されているが、どこで発見されるケースが多いのか。

高齢者支援課：一般の方が、道端で発見するケースが多いと認識している。

D 委員：若い世代へのおでかけあんしんシールについて周知はしているのか。

高齢者支援課：小学生向けに認知症サポーター養成講座を実施しており、シールを貼付している方を見かけたら、声をかけてほしいということは伝えている。

B 委員：認知症サポーター養成講座は、認知症に対する理解を深めることが主な目的という理解で良いか。

高齢者支援課：そのとおりである。講座を受講した方に、実際に認知症高齢者の方の支援の担い手として活動していただくことは、次のステップであり、まずは正しい知識と理解を深めていただくことを目的としてい

る。

講座を受講した方に対して、お手伝いをできる方がいれば、随時、次のステップの研修であるスキルアップ講座の案内やオレンジカフェの手伝いなどの協力を依頼している。徘徊している高齢者がいないかアンテナを張るだけでも、サポーターの担い手として考えている。

B 委員：認知症サポーター養成講座の受講者を増やしたいという考えで良いか。

高齢者支援課：そのとおりである。新型コロナウイルスの影響で、講座を積極的に開催できなかった部分もある。オンライン講座を導入したことにより、新しい世代の参加もあった一方で、受講者は50歳代から60歳代の方が多いので、オンラインではなく、直接話を聞きたいという方もいる。受講者を増やす取組は検討したい。

会 長：予算、決算の状況をみると、新型コロナウイルスの影響をあまり受けていないように見える。

高齢者支援課：次回、分かりやすいようお示しする。

B 委員：おでかけあんしん事業については、当初は、登録が少なかったことから、職員がエクセルに入力しているが、今後は福祉総合システムを改修し、統合したいということか。

高齢者支援課：そのとおりである。

B 委員：システム改修の経費は、この事業ではなく、他の所管課で予算を計上するのか。

高齢者支援課：そのとおりである。

B 委員：今年度からシステム改修は実施しているのか。

高齢者支援課：まだ実施できていない。

E 委員：システムの一元化は賛成である。誤りがないように、データの確認は二重、三重でやるべきだ。

高齢者支援課：高齢者が行方不明になり、区に問い合わせがあった場合、迅速な対応が求められる。システムを一元化することで、高齢者支援課の職員全員が、関係機関に対し、行方不明者の情報を正確かつ迅速に伝えられるようにしたい。また、おでかけあんしん事業に登録するために、職員が一人あたり80の項目を800人以上入力している。その点についても効率性はあまり良くないと認識している。

D 委員：もの忘れ予防フェスタは、気軽に参加でき、認知症の知識を深めるうえで、良いイベントだと思うが、今後、実施しない理由は何か。

高齢者支援課：令和2年度、令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で、開催す

るかどうか難しい判断を迫られていた。共催でイベントを開催していたが、共催者から、負担がかかるため、一区切りにしたいという話もあり、検討した結果、終了する方針になった。

B 委員：評価表の成果指標の目標値についてお聞きしたい。認知症サポーター養成講座以外は微増になっている理由は何か。

高齢者支援課：認知症に困っている人が減少すれば、コールセンターの受付件数も減るなど、目標値の設定が難しいことから、あくまで目安として、3カ年の平均数値を目標値として設定している。

A 委員：もう少し認知症のサポーターを増やした方が良いと思う。徘徊に起因した事故が一番怖いことだ。おでかけあんしんシールも良いシステムだと思うが、一般の方は知らないのではないか。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会